

資料 1 - 3

広域ブロック単位 イノシシの
個体数推定及び将来予測の結果



1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度の推定個体数（捕獲前）

中央値 113,009 頭

90%信用区間 62,666～1,049,682 頭

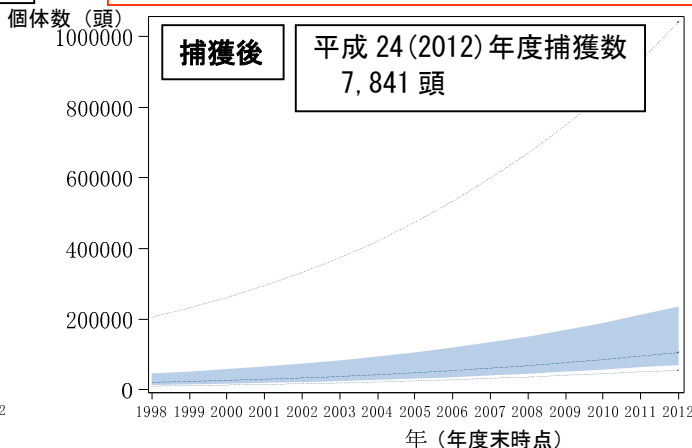
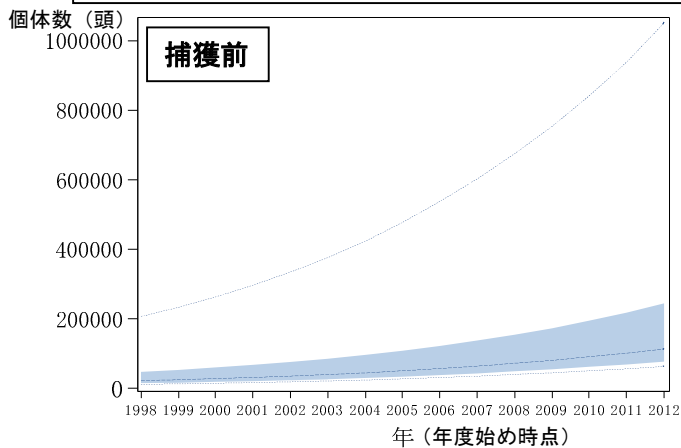
50%信用区間 76,927～243,657 頭

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数（捕獲後）

中央値 105,168 頭

90%信用区間 54,825～1,041,841 頭

50%信用区間 69,086～235,816 頭



※イノシシは年内の個体数変動が大きいため、捕獲前（数が最も多い）と捕獲後（数が最も少ない）の推定結果を記載した。
 ※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで当該地域で採用していた方法とは異なることに留意が必要）。

2. 将来予測の結果

(1) 現行(平成 23(2011)年度)の捕獲率^注を維持する場合

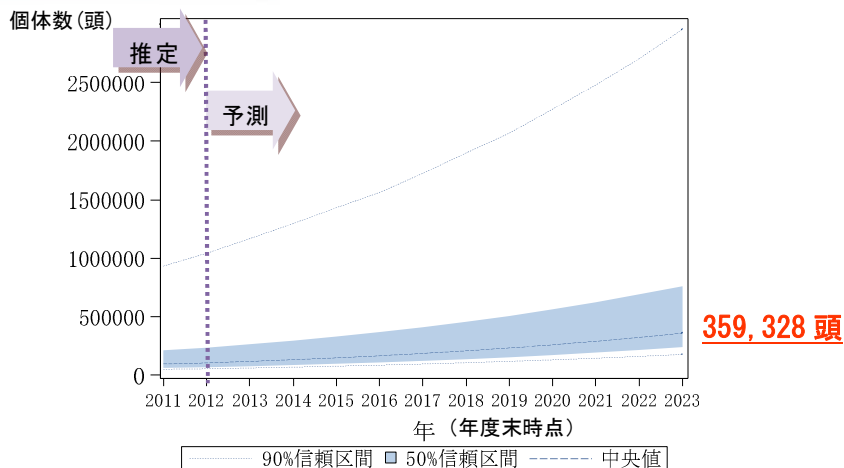
➤ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

中央値 359,328 頭

90%信頼区間 177,489～2,955,330 頭

50%信頼区間 239,360～761,414 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行(平成 23(2011)年度)の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

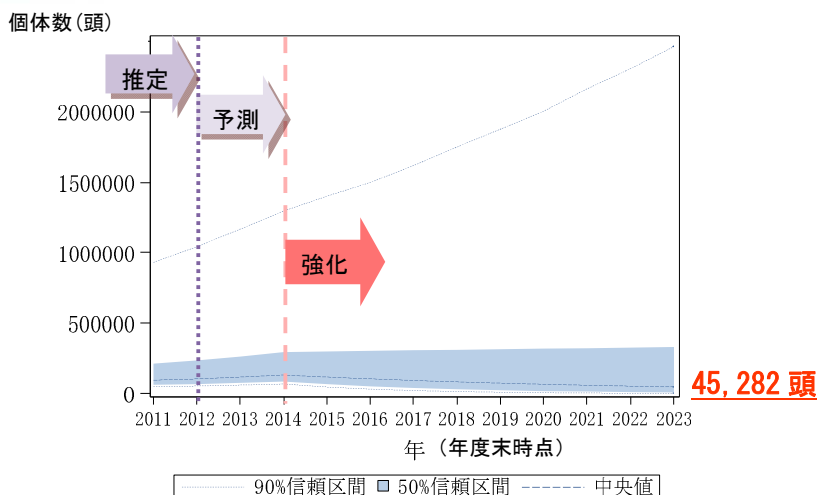
中央値 45,282 頭

90%信頼区間 2,132～2,452,658 頭

50%信頼区間 8,141～323,608 頭

※仮に全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 5.1 倍を維持すると半減すると予測された。



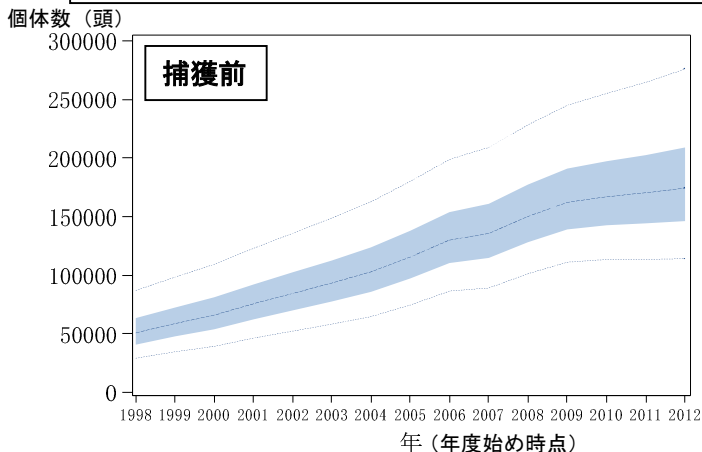


1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度の推定個体数（捕獲前）

中央値 174,225 頭

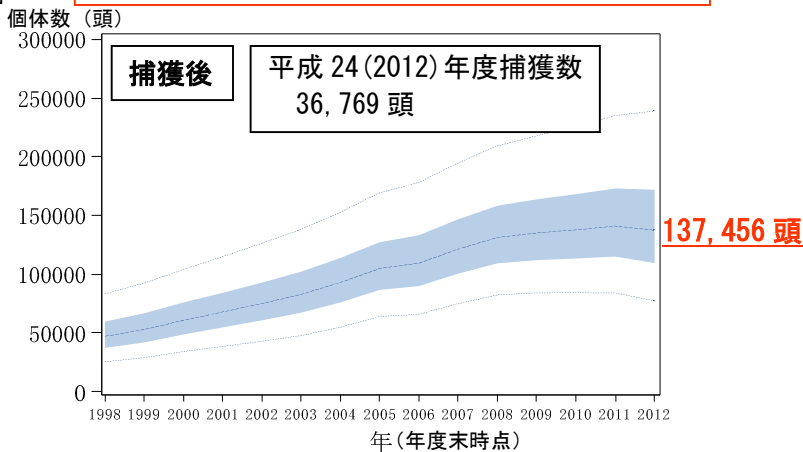
90%信用区間 114,166～275,749 頭
50%信用区間 146,206～208,829 頭



➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数（捕獲後）

中央値 137,456 頭

90%信用区間 77,397～238,980 頭
50%信用区間 109,437～172,060 頭



※イノシシは年内の個体数変動が大きいため、捕獲前（数が最も多い）と捕獲後（数が最も少ない）の推定結果を記載した。
 ※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで当該地域で採用していた方法とは異なることに留意が必要）。

2. 将来予測の結果

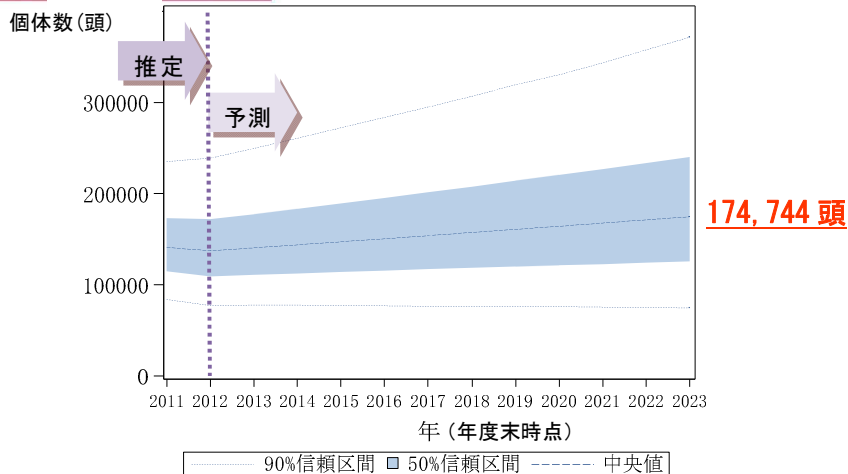
(1) 現行(平成 23(2011)年度)の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

中央値 174,744 頭

90%信頼区間 74,846～371,485 頭
50%信頼区間 125,877～240,198 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行(平成 23(2011)年度)の個体数を半減させる場合

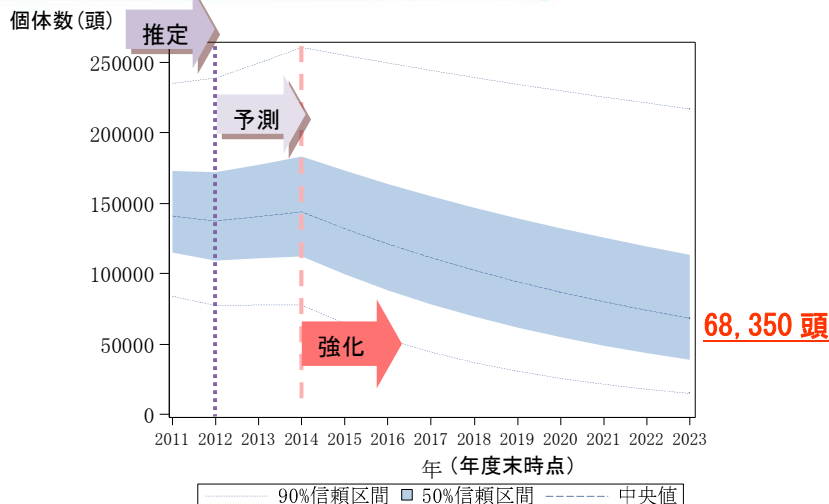
➤ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

中央値 68,350 頭

90%信頼区間 14,997～216,974 頭
50%信頼区間 38,892～113,503 頭

※仮に全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.5 倍を維持すると半減すると予測された。



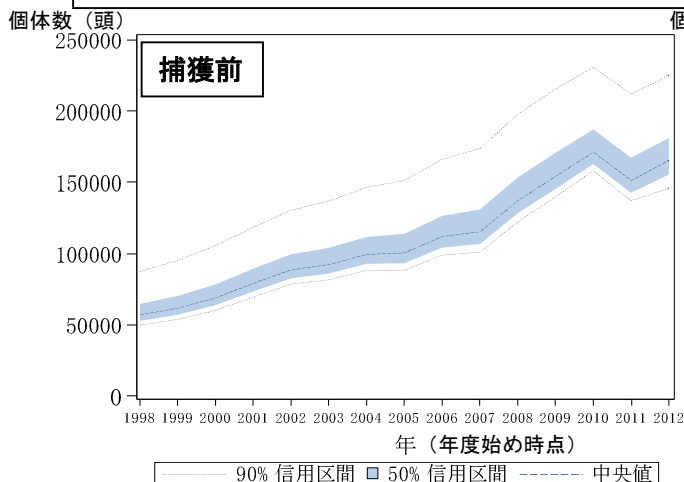


1. 個体数推定の結果

▶ 平成 24(2012)年度の推定個体数（捕獲前）

中央値 165,357 頭

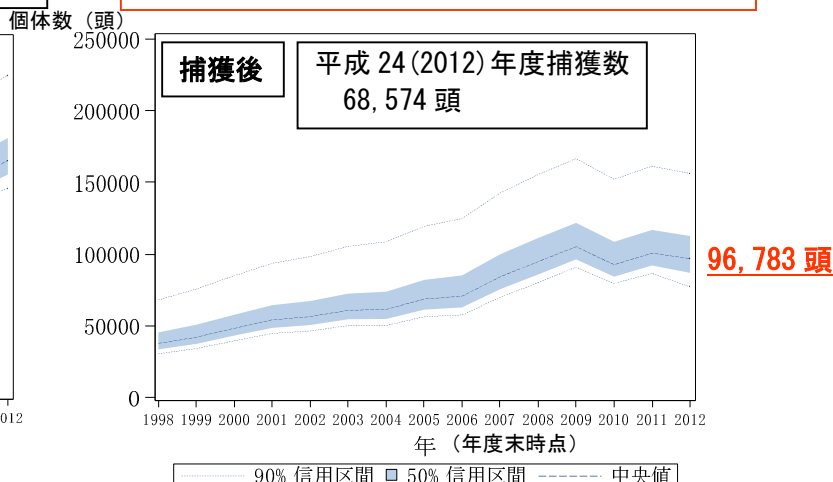
[90%信用区間 145,714~224,888 頭]
[50%信用区間 155,528~181,154 頭]



▶ 平成 24(2012)年度末の推定個体数（捕獲後）

中央値 96,783 頭

[90%信用区間 77,141~156,314 頭]
[50%信用区間 86,954~112,580 頭]



※イノシシは年内の個体数変動が大きいため、捕獲前（数が最も多い）と捕獲後（数が最も少ない）の推定結果を記載した。
 ※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで当該地域で採用していた方法とは異なることに留意が必要）。

2. 将来予測の結果

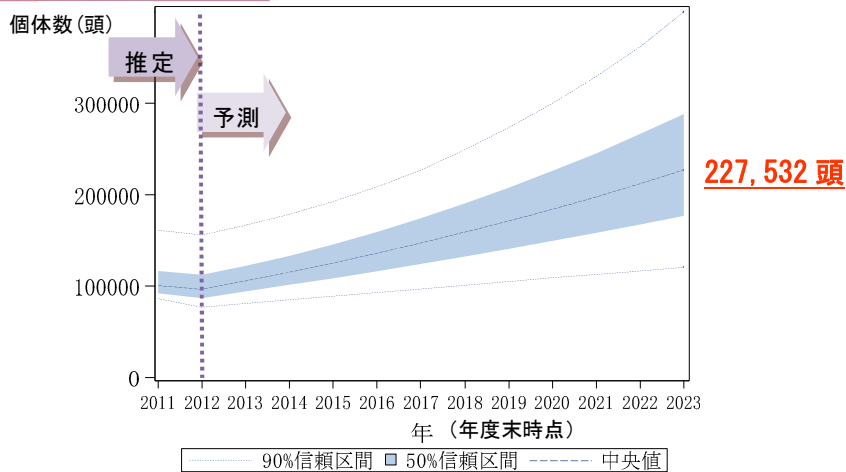
(1) 現行(平成 23(2011)年度)の捕獲率^注を維持する場合

▶ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

中央値 227,532 頭

[90%信頼区間 120,826~400,542 頭]
[50%信頼区間 176,970~288,602 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行(平成 23(2011)年度)の個体数を半減させる場合

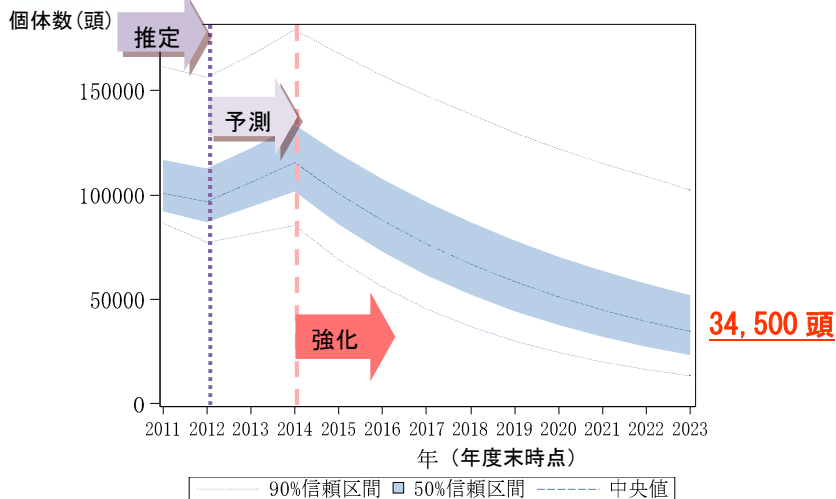
▶ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

中央値 34,500 頭

[90%信頼区間 13,263~102,290 頭]
[50%信頼区間 23,212~51,872 頭]

※仮に全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.4 倍を維持すると半減すると予測された。



近畿地方 イノシシの個体数推定及び将来予測の結果について

(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)



1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度の推定個体数（捕獲前）

中央値 169,472 頭

90%信用区間 77,900~1,240,000 頭

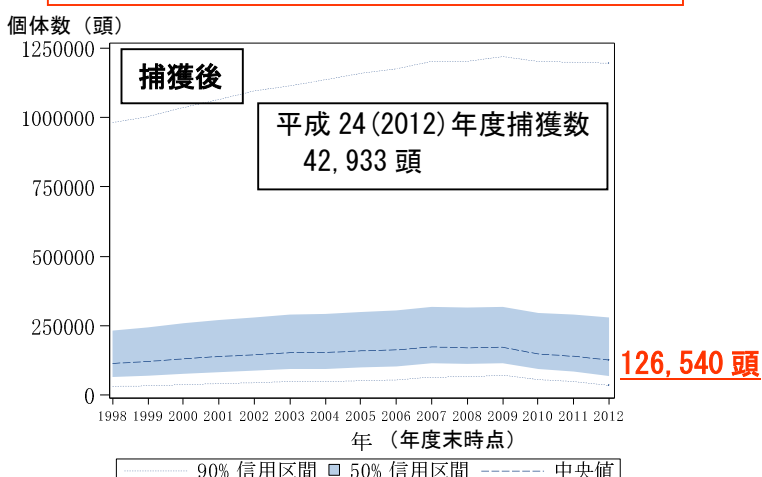
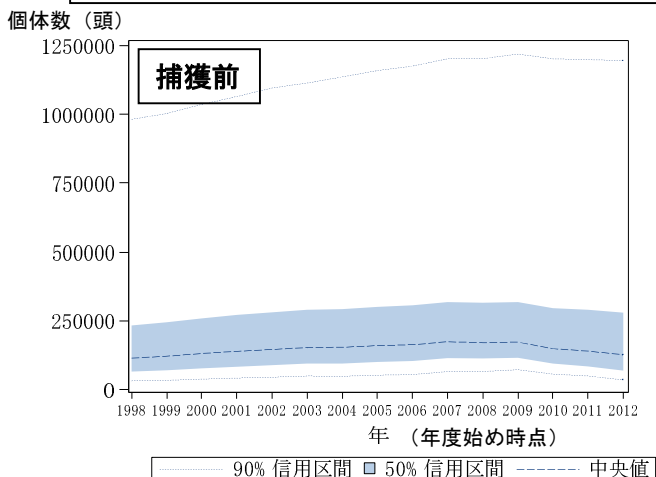
50%信用区間 111,946~322,585 頭

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数（捕獲後）

中央値 126,540 頭

90%信用区間 34,966~1,196,139 頭

50%信用区間 69,014~279,650 頭



※イノシシは年内の個体数変動が大きいため、捕獲前（数が最も多い）と捕獲後（数が最も少ない）の推定結果を記載した。
 ※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで当該地域で採用していた方法とは異なることに留意が必要）。

2. 将来予測の結果

(1) 現行(平成 23(2011)年度)の捕獲率^注を維持する場合

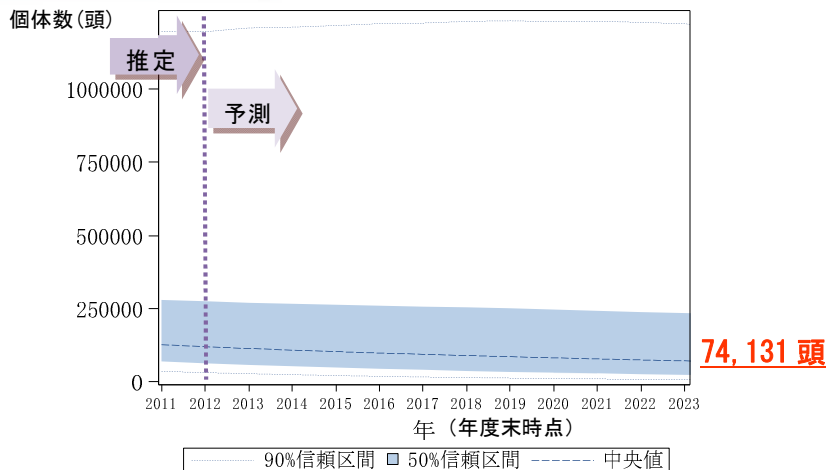
➤ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

中央値 74,131 頭

90%信頼区間 7,945~1,230,000 頭

50%信頼区間 25,693~238,076 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行(平成 23(2011)年度)の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

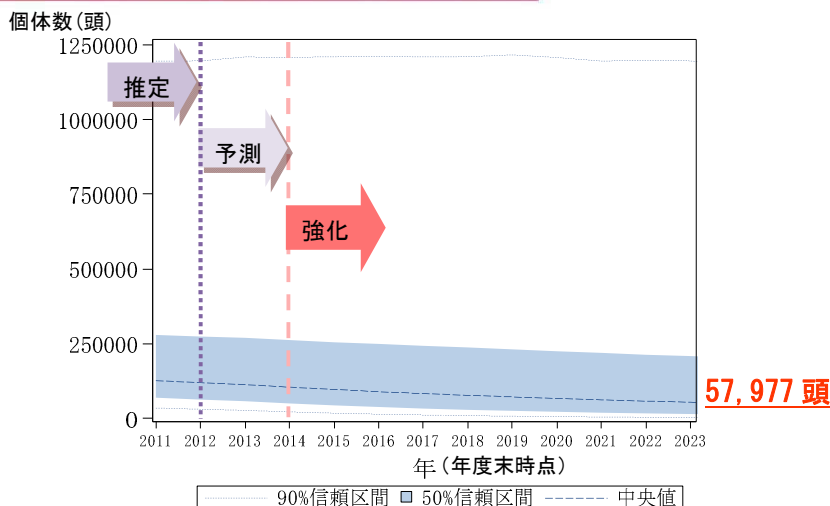
中央値 57,977 頭

90%信頼区間 3,851~1,200,000 頭

50%信頼区間 16,848~213,169 頭

※仮に全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.1 倍を維持すると半減すると予測された。



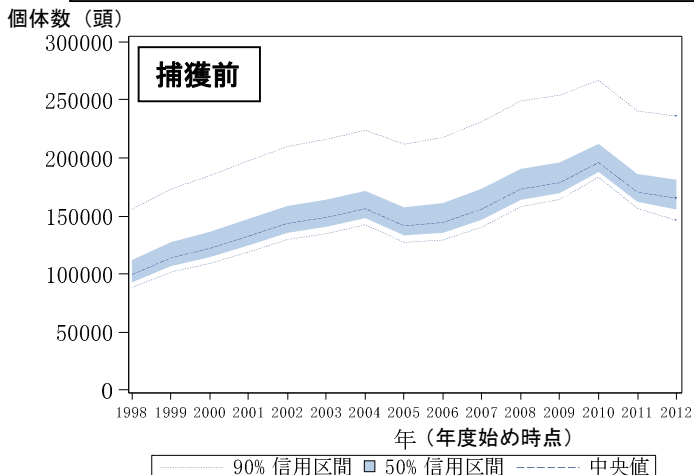


1. 個体数推定の結果

▶ 平成 24(2012)年度の推定個体数（捕獲前）

中央値 165,308 頭

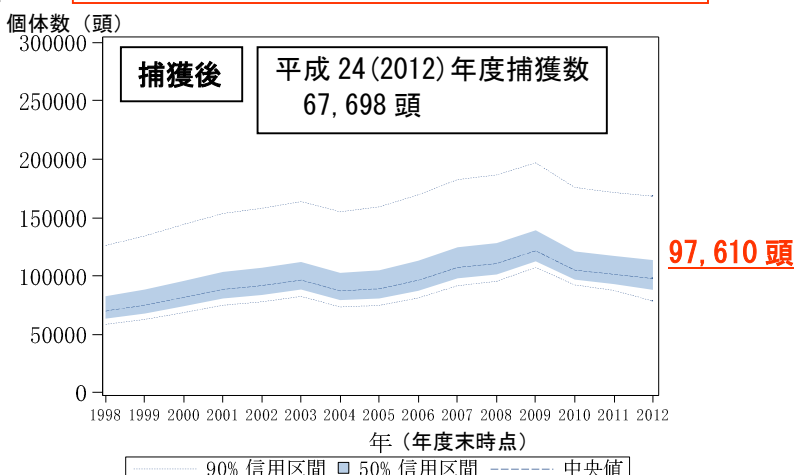
90%信用区間 146,031~235,935 頭
50%信用区間 155,511~181,191 頭



▶ 平成 24(2012)年度末の推定個体数（捕獲後）

中央値 97,610 頭

90%信用区間 78,333~168,237 頭
50%信用区間 87,813~113,493 頭



※イノシシは年内の個体数変動が大きいため、捕獲前（数が最も多い）と捕獲後（数が最も少ない）の推定結果を記載した。
 ※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで当該地域で採用していた方法とは異なることに留意が必要）。

2. 将来予測の結果

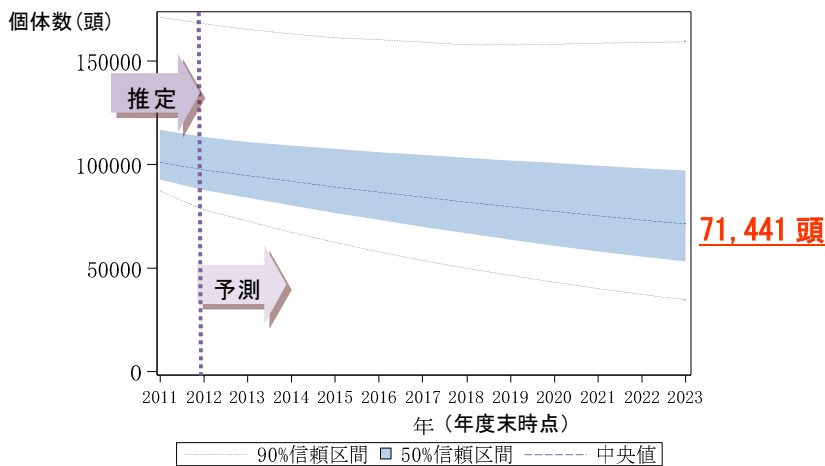
(1) 現行(平成 23(2011)年度)の捕獲率^注を維持する場合

▶ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

中央値 71,441 頭

90%信頼区間 34,814~159,497 頭
50%信頼区間 53,340~97,275 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行(平成 23(2011)年度)の個体数を半減させる場合

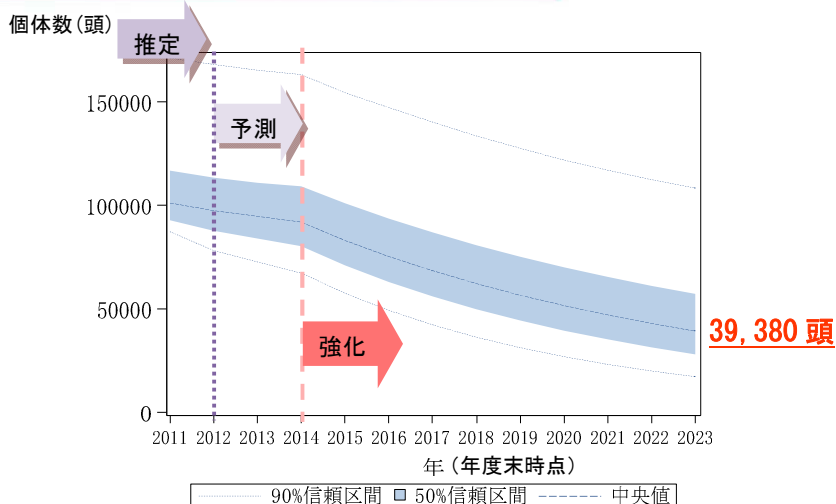
▶ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

中央値 39,380 頭

90%信頼区間 17,336~108,527 頭
50%信頼区間 28,121~57,332 頭

※仮に全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.1 倍を維持すると半減すると予測された。



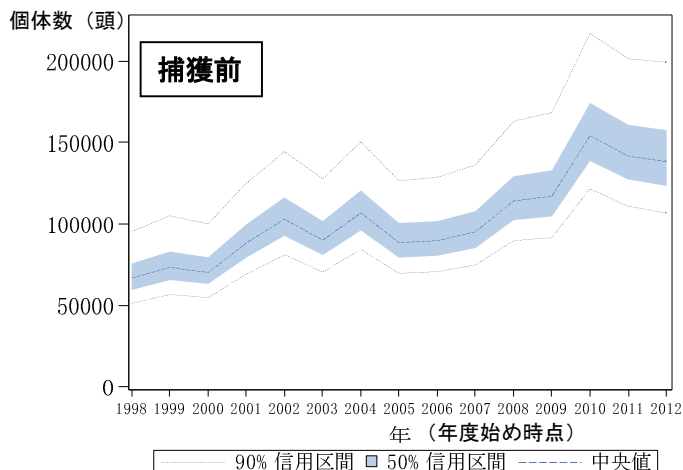


1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度の推定個体数（捕獲前）

中央値 138,299 頭

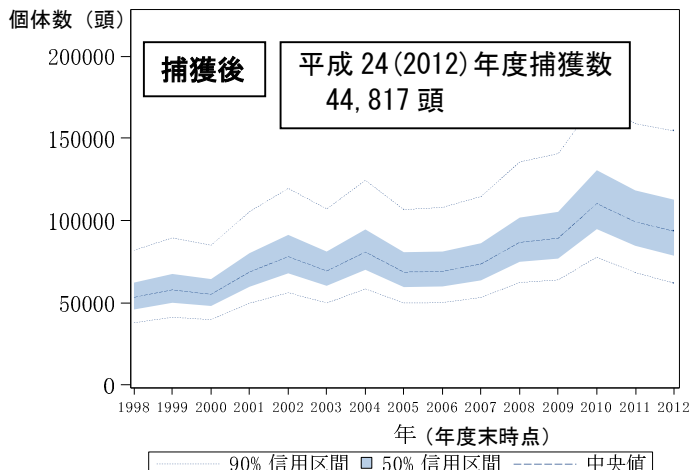
[90%信用区間 106,692~199,342 頭]
[50%信用区間 123,419~157,483 頭]



➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数（捕獲後）

中央値 93,482 頭

[90%信用区間 61,875~154,525 頭]
[50%信用区間 78,602~112,666 頭]



93,482 頭

※イノシシは年内の個体数変動が大きいため、捕獲前（数が最も多い）と捕獲後（数が最も少ない）の推定結果を記載した。
 ※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで当該地域で採用していた方法とは異なることに留意が必要）。

2. 将来予測の結果

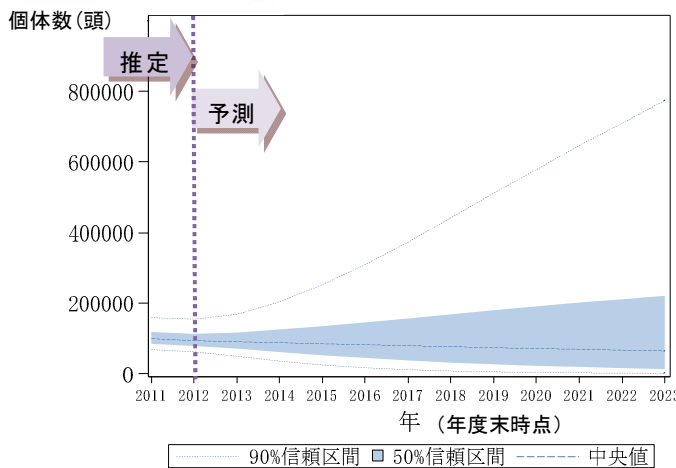
(1) 現行(平成 23(2011)年度)の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

中央値 64,557 頭

[90%信頼区間 1,036~774,484 頭]
[50%信頼区間 13,384~220,899 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



64,557 頭

(2) 平成 35(2023)年度に現行(平成 23(2011)年度)の個体数を半減させる場合

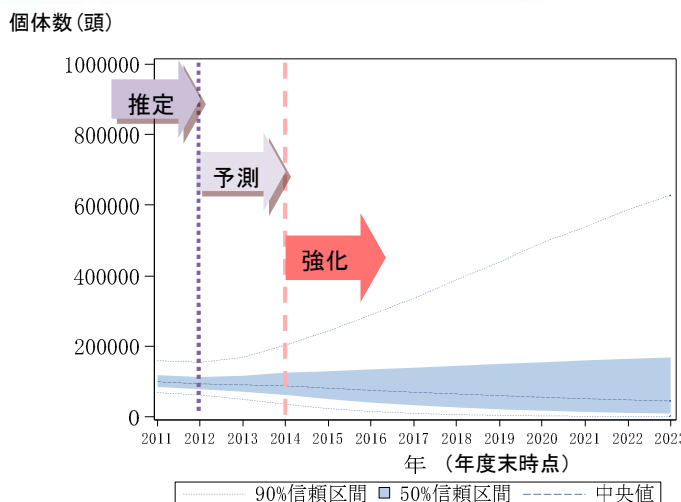
➤ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

中央値 44,580 頭

[90%信頼区間 655~628,221 頭]
[50%信頼区間 8,934~168,108 頭]

※仮に全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.1 倍を維持すると半減すると予測された。



44,580 頭

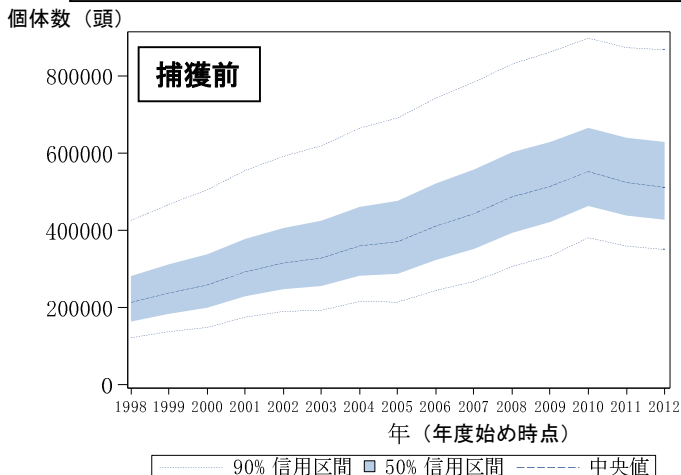


1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度の推定個体数（捕獲前）

中央値 510,954 頭

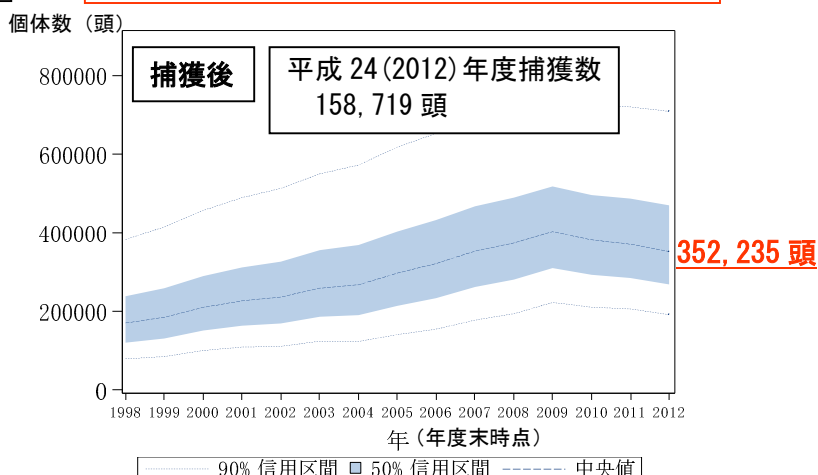
90%信用区間 350,500～867,441 頭
50%信用区間 427,581～628,829 頭



➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数（捕獲後）

中央値 352,235 頭

90%信用区間 191,781～708,722 頭
50%信用区間 268,862～470,110 頭



※イノシシは年内の個体数変動が大きいため、捕獲前（数が最も多い）と捕獲後（数が最も少ない）の推定結果を記載した。
 ※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで当該地域で採用していた方法とは異なることに留意が必要）。

2. 将来予測の結果

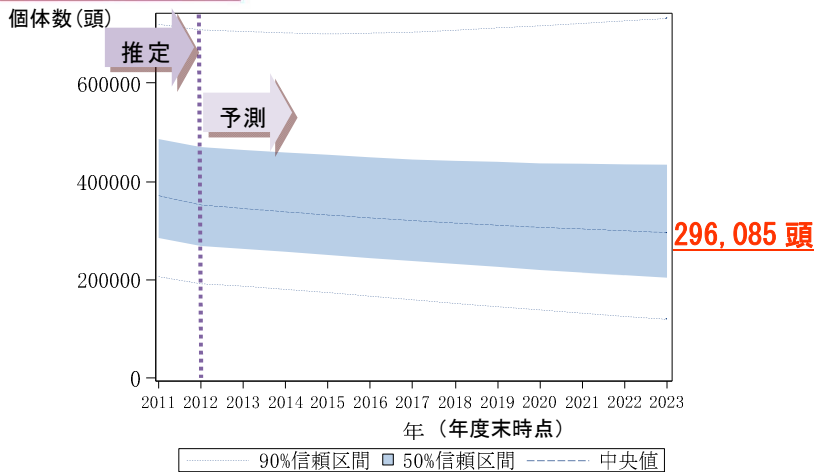
(1) 現行(平成 23(2011)年度)の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

中央値 296,085 頭

90%信頼区間 119,313～731,780 頭
50%信頼区間 204,202～434,218 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行(平成 23(2011)年度)の個体数を半減させる場合

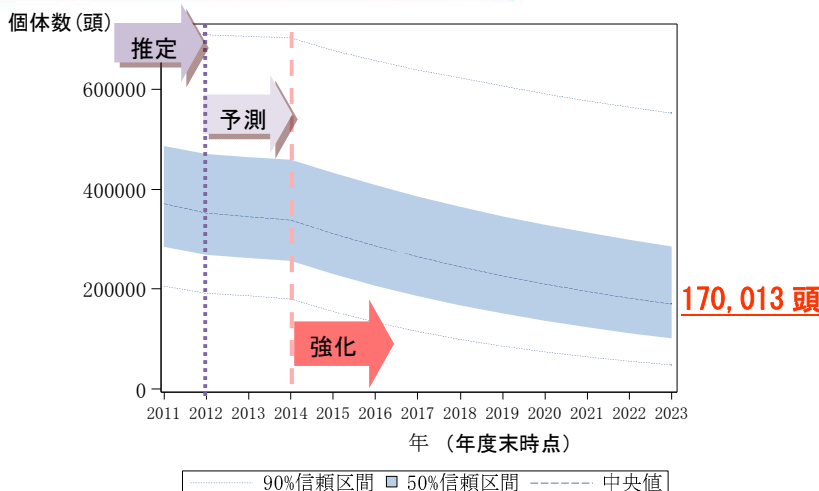
➤ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

中央値 170,013 頭

90%信頼区間 48,681～551,899 頭
50%信頼区間 101,858～285,158 頭

※仮に全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.15 倍を維持すると半減すると予測された。



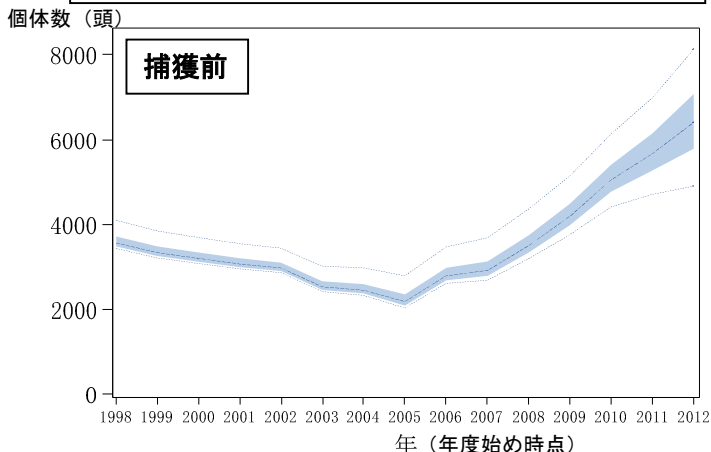


1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度の推定個体数（捕獲前）

中央値 6,407 頭

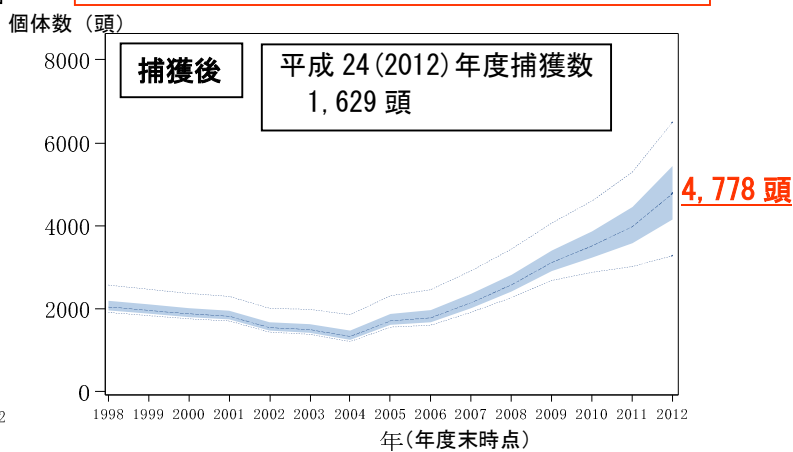
[90%信用区間 4,906~8,130 頭]
[50%信用区間 5,781~7,072 頭]



➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数（捕獲後）

中央値 4,778 頭

[90%信用区間 3,277~6,501 頭]
[50%信用区間 4,152~5,443 頭]



※イノシシは年内の個体数変動が大きいため、捕獲前（数が最も多い）と捕獲後（数が最も少ない）の推定結果を記載した。
 ※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで当該地域で採用していた方法とは異なることに留意が必要）。

2. 将来予測の結果

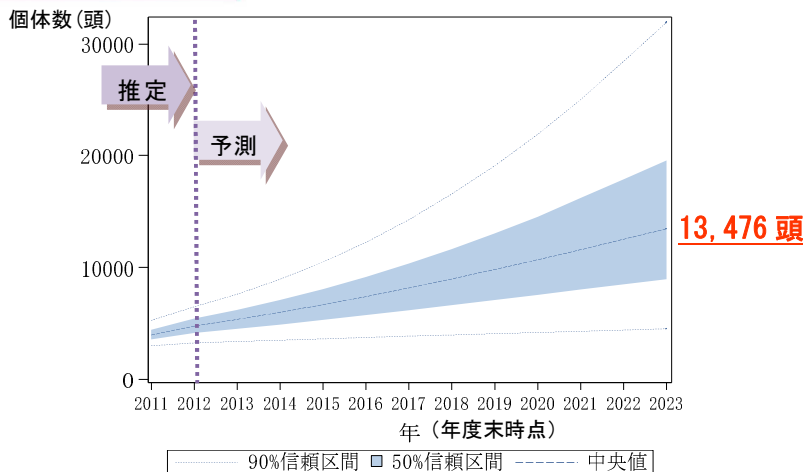
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

中央値 13,476 頭

[90%信頼区間 4,543~31,927 頭]
[50%信頼区間 8,972~19,586 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度末の推定個体数

中央値 1,314 頭

[90%信頼区間 140~5,316 頭]
[50%信頼区間 595~2,446 頭]

※仮に全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.6 倍を維持すると半減すると予測された。

